



審査員や見学者が見つめる中、介護技術を披露する  
出場者＝16日、境港市竹内団地

# 介護の質高めよう

## 境港で全国コンテスト

介護の質の向上へ競技形式で学び合う「第2回オールジャパンケアコンテスト」(社会福祉法人こうほうえん主催)が16日、境港市竹内団地の夢みなとタワーで開かれた。高齢者施設の職員ら70人が食事・入浴など5分野で課題に応じた介護技術を披露し、審査を受けた。

「介護の日」(11月11日)の行事として昨年、出雲市で初めて開催。介護職員が身に付けた介護技術や心構えを第三者に披露し、評価・ディスカッションを通じて研さんする。コンテストには、新潟県から鹿児島県まで全国各地から応募があり、インドネシアの研修生4人も挑戦。食事・排せつ・入浴・認知症・看取りの5分野で、高齢者役の「こうほうえん」職員を相手に、7分間の持ち時間で実技に取り組んだ。

このうち、排せつの分野では脳梗塞で右半身麻痺があり、車椅子を使用する90歳(選手と同性)を介助するという設定。安全への配慮、高齢者の意志の尊重などをチェックポイントに評価を受けた。同分野に境港市から出場した大田僚さん(28)はまかせデイケアは「自分の技術レベルを再確認できるし、他の施設職員の取り組みも参考になります」と話していた。

審査の結果、各部門の最優秀者が決まり、鳥取、島根両県関係では、看取りで江角政之さん(さかい幸朋苑)、入浴で内田美好さん(もちだの郷)が選ばれた。